



我 夢 哲 便 り

清田てつや後援会報
発行：清田てつや後援会

こんにちは、清田てつや です。日一日と秋が深まる今日この頃ですが、いかがお過ごしですか？僕は、スポーツの秋ということで、県体の議員の部に参加しました。種目は400mリレーとソフトボール。高校時代バスケットボール大分県準優勝の実績がありますので(^_^)v かなりの自信を持っておりましたが、本番二日前のリレーの練習で、肉離れになりリレーは先輩議員さんに代わってもらい、ソフトも3回で交代し、みんなに迷惑かけっぱなしの県体でした。年って確実にとってるんですねえ(～～)

さてさて、議会のほうは2回目の一般質問に立ちました。前回よりは緊張せずにできたと思います。下水道についておこなったんですけど、自分のところは下水道きていないから関係ないなんて思わないでください!!放っておくと大変なことになりますよ～。

ということで、今回の議会報告、読んでみてくださいね!(^^)!



下水道事業について

下水道とは？

地中に管路を埋設し、その管路に各世帯が生活排水（し尿を含む）を流して、河口付近に設けられた終末処理場に集め、浄化して海や川などに排水する施設のことを言います。施設としては終末処理場部分と、管路部分から構成されます。

下水道の種類

大まかに言いますと、公共下水道、特定環境保全下水道、農業集落排水、漁業集落排水の4種類が佐伯市内には存在しています。簡潔に説明しますと、公共下水は市街地（主に都市計画区域）、特定環境下水は特に環境を保全する必要のある区域（自然公園区域内）、農業、漁業の各集落排水は農村、漁村の生活排水処理ということになります。処理方法等に若干の違いはありますが、基本的に同じです。もっとも違うのは、所轄官庁です。公共、特環は国土交通省、二つの集落排水事業は農林水産省となっています。

下水道のいいところ

各世帯から直接管路に排水し、その管路が処理場までつながっているため、生活排水と自然環境を完全に隔離できるため、水質改善が図られ自然環境を衛生的に、美しく保全できる。

処理場にて一括処理するので、下水道に接続している世帯の生活排水は、完全に浄化して排水できる。

浄化槽を設置しなくても、トイレの水洗化が可能。

下水道の問題点

建設費、維持費に大きな費用がかかる

人口の多い地域では料金収入も多く、1世帯あたりの負担も少ないが、人口が少ない地域は料金収入だけでは維持できないので、利用していない人々の税金も投入して維持、運営している。

人口減少を想定して造っていない

浄化槽の年間維持費以上の料金設定になる可能性が大きい。

災害に弱い。地中に埋設した管路は復旧にも時間がかかる。

施設を作っても接続する世帯がなければ、全くの無駄になる。

佐伯市の現状と今後

佐伯市には、現在、26の下水道施設があります。下水道事業は料金収入で維持、運営していくのが基本なのですが、佐伯市の場合、料金収入だけで運営しようとしたら、利用者の負担が大きくなりすぎるので、環境保全という公共の利益の役割も担っているのです。一般財源(佐伯市民の税金です)から足りない分を毎年補填しています。維持費や建設費、今まで造った分の借金返済などに充当しています。ちなみに一般財源からの充当額、平成19年度の数字ですが、約11億8千万円でした。

現在、利用している市民の皆様のため維持はしていかななくてはなりません。維持だけであれば、料金の若干の値上げはあるでしょうが、一般財源からの充当額は年を追って減っていきます。新しい施設を造らなければ・・・しかし、平成24年度に鶴岡地区に新たな下水道の建設計画があります。事業費は概算で40億円。国からの補助が12.5億円、一般財源が2億円、企業債(借金)が25.5億円。この建設計画は平成6年、15年も前に認可を受けた事業が3年後に着工されようとしています。

僕は、下水道が全て無駄であるとは思いませんが、人口減少、財政の状況等、佐伯市の現状を鑑みた時、本当に鶴岡地区に下水道が必要かどうかを、よく考えなければならないと思うんです。家と管路を繋ぐ工事は全て自己負担、使用量は水道料金の約1.5倍、つまり、水道料金が3000円ならば $3000円 \times 1.5 = 4500円$ 4500円 + 3000円 = 7500円。使用を開始すると毎月4500円出費が増えます。環境にしたって、合併浄化槽を設置すれば全く問題ありません。下水道やめて、合併浄化槽の補助率をあげたほうが思いっきり安上がりなんです。このように、経済比較だけで考えれば、鶴岡に下水はいらないということになるんですが、鶴岡には小田井堰や雨水排水の問題等、経済比較だけで判断してはいけない事情もいくつかあります。今議会(9月議会)で、僕が一番言いたかったことは、なぜ鶴岡地区に下水道が必要かを今一度考え、本当に必要ならばその理由を市民に十分周知したうえで建設しないと、多分、誰も接続しないと思うんです。接続がなければ、料金収入も上がっていかないし、ますます、一般財源からの充当額が増え、結局は市民の負担が増えていきます。なんととっても、15年前の認可ということは、計画そのものはもつと前、人口減少や将来負担なんて真剣に反映されてませんよね。そこが、一番恐ろしいところなんです。最近では、新規の下水道建設を取りやめる自治体が多くなってきています。県内では由布市などがあります。住民が必要としない公共事業が無駄なのであつて、そんな無駄を排除すれば、広い佐伯市、まだまだ必要な公共事業はたくさんありますので、それらを行うことが可能になります。

(株東洋サッシ工業 様

住所 鶴岡町3-3-7
電話 25-1755
F A X 25-1756 です。

事務員さんがいないので、留守にすることも多いですが、お気軽にお立ち寄りください!!!
!(^^)!

Honda cars 佐伯中央 藤原店 様

清田てつや後援会事務所

美容室ひまわり様

マルシヨク鶴岡店様

討議資料